

(一) 日本銀行を去るにあたって

本日（一九九四年 四月一日）、日本銀行を去るに際してひとことお礼のご挨拶を申し上げます。

本日は新年度の初日という極めてご多用な日にもかかわらず、私のために貴重なお時間を割いて日本銀行幹部の方々にお集まりいただき、大変ありがたく、また光栄に存じます。三重野総裁からは、ただ今、心暖まる、そして身に余るお言葉をいただき大へん恐縮いたしております。

総裁への謝辞

思い起こせば、これまでの日本銀行における職業生活は、私にとって大へん恵まれた、そして素晴らしい二十六年間であったというのが率直な気持ちでございます。入行直後の三年間の広島支店での勤務を終えて本店人事部に出頭し、三重野人事部次長（当時）にご挨拶に参上した時（昭和四十六年）、総裁（三重野氏）は、きりりと立ち上がられ「しっかり勉強してきて下さい」とやさしくお言葉をかけてくださいました。私にとっては、これが三重野総裁と初めて言葉をかわす機会でございます。

その後、円卓（役員集会）に調査研究の結果を報告するなどの仕事を通じて、あるいは夜の懇談会の席上などインフォーマルな色々な場面において、直接あるいは間接に長年にわたって総裁よりご指導賜り、また励ましのお言葉を下さったのは、誠にありがたく忘れ得ないことでございます。

日本銀行で教わったこと

また、吉本副総裁をはじめ役員および参事の皆様方からは、日々の仕事を進めるなかで、あるいは私的にお付き合いさせていただくなかで実に多くのことを学ばせていただきました。金融・経済の様々な知識を自分なりに身につけることができたのは、そうしたお陰であることは申すまでもありませんが、もっと基本的なことがらについても大へん多くの大切なことをご教示いただきました。

良い文章の書き方からはじまり、ものごとの捉え方、分かりやすい説明の仕方、あるいは常識に基づいた判断の限界ないし場合によっては常識的な判断の大切さ、ものごとにおいて「筋を通す」ということの意味とその大切さ、部下の育て方等々、挙げれば際限がありません。これらのことがらのうちで私にとって自らの血となり肉となっているものがあるとすれば、それ

は日本銀行で皆様方に囲まれてこれまで仕事をする事ができたからでございます。

さらに申せば、最近四年間については、総裁からご紹介いただいたように、外(国)から外(国)へという、日銀マンとしては珍しい勤務経験をさせていただきました。米国の二つの大学(ペンシルバニア大学、プリンストン大学)において教壇に立ち、そして直ちに続いてオーストラリアの大学(シドニー所在のマックオーリー大学)においては日本経済研究所を立ち上げるという仕事をお与え下さいました。これらの仕事は、私のこれまでの日銀での経験を生かし、さらにそれを発展させることができるありがたい機会であり、極めて貴重な経験でございました。

この結果、日銀マンとしてのこれまでの二十六年間においては、留学期間やロンドン事務所勤務の期間などをも含めて合計実に八年近くを海外で過ごしたことになる、私にとっては大へん多くの経験をする事ができた、思い出の多い二十六年間でもございました。

私の日銀時代を一言で申すならば、日本銀行は長年かかって私に大きなひとつの宝物を与えて下さったのだ、といえるように思います。

この間においては、皆様方より格別のご指導、ご配慮を賜り、あるいは時には建設的なご批判を率直にお聞かせ下さり、そして常に励ましのお言葉をいただき、誠にありがとうございました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

慶応大学での任務、決意

慶応義塾大学では、金融や海外地域研究といった授業や、国際金融の大学院ゼミナールなどを担当いたします。私が所属することになる総合政策学部は、四年前に湘南藤沢の地に創設された新しい学部です。

そこでは、従来の大学とは趣をかなり異にしており、特定の学問分野の知識を学生に伝授するというのではなく、現代社会や環境についての問題を発見し、その性質を分析し、そして問題解決の政策を考えることを発想の原点とした研究と教育が指向されております。また、それを従来の学問領域にとらわれず、学際的にアプローチすることを狙う点でも革新的な学部です。これまでに私が享受した経験や知識をここで十分生かすとともに、今後一層の研鑽を積んで、こうした容易ならざる、しかし魅力的な任務にこれから挑戦していく覚悟でございます。

二十一世紀を担う世代に対する高等教育に今後従事することは、大へんやりがいのある、そして楽しい仕事ではありますが、それはまた大へん責任の重い任務でもあります。今後こうした大きな任務を遂行していく上では、何かと皆様方にご指導、ご助言をお願いする機会も少なくないと存じますが、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

本日は、誠にありがとうございました。

(日本銀行・三重野康総裁主催の昼食送別会における挨拶、
一九九四年 四月一日、於日本銀行本店役員食堂)